

女子サッカー一部報告

女子サッカー一部顧問 大橋 忠仁



昨年度、2つの全国大会に出場することが出来ました。山桜会をはじめ多くの方々にご支援ご声援いただいたことに改めて御礼申し上げます。

さて、新チームになり短い準備期間しか取れなかったこともあり、新人大会では思うような結果を残すことは出来ませんでした。しかしながら、昨年度の全国ベスト8の結果が参考にされ、強豪校が集まる“サニックス杯ユースサッカー大会”に初めて出場することができました。昨年度高校女子サッカー2冠の神村学園を予選リーグと決勝トーナメントで下し、最終結果として第3位となることが出来ました。

また、コロナの影響で延期されていた、茨木市長に全国大会出場の表敬訪問に行かせて頂きました。渡辺市長より新チームへの激励もいただき、今年度も市長に報告に来れるよう頑張りたいと決意を新たにしました。引き続き、ご支援ご声援のほどお願いいたします。



新入生を迎えて

中1 学年主任 木村 耕太郎

4月8日の入学式、中学56期61名が本校に入学してくれました。やや大きめのジャケットとパンツを身にまとった緊張気味の新入生たちを見ると、初々しさが伝わってきます。

同月15日から一泊二日で行われた、中1限定の行事宿泊オリエンテーション。バーベキューでの役割分担、クラス写真を撮る際の配列、目標の設定、自己開示など、用意した様々なプログラムに対峙する生徒たちは、自身で考え、同級生と話し合い、何とか課題をクリアしようと奮闘します。



15年以上前、私が20代の後半で担任をしていた頃に比べると、技術環境も、教育に対する考え方もその方法論もずいぶん変化したように感じます。ただ、担任会の若い教員団が、目の前の生徒たちに、必死に何かを伝えようとしている姿は、昔も今も変わらないように感じます。ところで、先日、学内で行われた教員向けの研修の一部で印象的な言葉がありました。「選択と決断が、人を成長させる。その土台にあるのは、その際に失敗しても大丈夫、という心理的、物理的安全性だ」というものです。日常の学校生活の中で、生徒たちが多くの選択と決断を繰り返し、たくさん成長できるよう、その環境を整えて参りたいと思います。



2022年度大学入試をふりかえって

進路指導部長 本多 和彦

2022年度大学入試での本校70期生のみなさんの主要合格実績は、国公立大106名(防衛大・防衛医大1次合格を含む)、関関同立224名、産近甲龍440名となりました。長年の目標であった国公立大100名を達成し、総合合格者の延べ数は1378名(浪人生を含む)に達しています。いずれの数字もここ10年来での最高数です。

右のグラフでも歴然と2020年以降合格者が飛躍的に増加していることがわかります。この年は本校が新キャンパス移転を果たし、生徒の主体性と協働性に特化した新たな学びに力点を置き始めた年です。総持寺の地での新たな学びの3年間で今回の進路結果となったと確信しています。

